

平場と歩み、栈敷席

平場とは、一階席の中央部分を意味します。席は右から順に、いろはにほへとちりぬるを...というように、平仮名を用いた伝統的な呼び方で呼ばれています。舞台に近い前方から後方まで、この席には壺から拾壺までの漢字が振られています。劇場の中央の座席は桝席と呼ばれ、昔は席を桝で購入しそこに一人から最大四人までが座って芝居を楽しみました。この柔軟な席の配置のおかげで、観客は舞台や花道、宙を舞う役者が見やすいように自由に席を移動したり向きを変えたりすることができました。今は桝席二つをあわせたスペースに五人の席が用意されています。これに加え、観客の視界が開けるよう、舞台から客席後方へ向かって上向きのなだらかな傾斜がついています。

平場の左右には一階、二階に栈敷席が設けられています。

さらに、平場を横切るように幅 15cm の歩行用の板（歩み）が 5 つついています。歩みを利用することで、席へ楽に移動ができます。

最前列の席をかぶりつきと呼び、これは文字通り「かぶりつくこと」を意味します。この席では観客が一番集中して歌舞伎を楽しむことができます。

※ただし、「四国こんぴら歌舞伎大芝居」の舞台では席の名称と番号が少々異なる場合があります。